

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に貼られている理念を各自が就業前に確認して実践できるように努力している。地域密着型の利点を活用して、利用者、家族、職員の中に一体感を持つことも出来ている。	法人理念及びく私たちの目指すもの>という事業目標を事務所に掲示し、毎日出勤時に確認し業務に入るようにしている。職員は日々、コミュニケーションを取ることを大切に快適に暮らしていただけるよう工夫を重ね支援に当たっている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加していたんですが、コロナ禍で参加できなくなってから3年近くが経ちます。その間施設の情報を包括や民生委員、地区会長さんにはお知らせして意見などを頂いております。	開設以来、町会費を納め地域の一員として活動しているが、新型コロナ禍が長引き殆どの地域行事が中止という残念な状況が続いている。そうした中、日々の散歩で地域の皆様と挨拶を交わしている。更に、コロナ収束後を踏まえ、区長、民生委員との連携を絶やさないようにしている。また、元看護師による「歌、体操」、ボランティアの来訪が再開され利用者の楽しみの一つとなっている。中学生、高校生、大学生の職場体験も収束後には積極的に受け入れを再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同事業所施設のケアハウスで入居者の方たちに認知症の理解を深めて頂くために、認知症サポーター養成講座を開催するために包括の方たちと相談して実行していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状運営推進会議を開催できていないので近隣施設と情報の交換を行いそれを支援や介護にいかしている。	新型コロナ禍が長引き書面での開催となっているが、利用状況、活動計画、活動報告等を書面にし、委員である家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、他グループホーム管理者に返信用封筒とご意見用紙を同封の上お届けし、意見を頂きサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や区分変更、研修のことなどわからないことがあれば連絡を取りわかりやすく説明してもらっている。	市高齢福祉課とは事故報告、コロナの感染対策、ワクチン接種等で連携を取り、地域包括支援センターとはコロナ対応、入居者の紹介等できめ細かな連携を取っている。また、地域内の別グループホームとも定期的に情報交換を行いサービスの向上に繋げている。更に、市が行っている「実践者研修」「管理者研修」等にも積極的に参加している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応して行っている。	

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段昼間は、玄関の施錠はしておらず、緊急性がなければ拘束をすることはない。施設内の勉強会などでも身体拘束適正化委員会を実施している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。現在外出傾向の強い利用者もなく、玄関は日中開錠されている。現在ベットの転落され骨折された方がおり終末期に入られており、ほかに転落が危惧される方がおり、家族と相談の上安全確保のため柵を使用している。また、転倒、転落の危惧のある方が三分の二ほどおり、家族と相談の上、人感センサーを使用し安全確保に努めている。職員は月1回のミーティングに合わせ、3ヶ月に1回行われる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高めると共に気付いた時には常に話し合い安全な支援に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会だけではなく、日ごろから職員間で話し合い虐待に関連した意見の交換なども行っている。やむを得ない場合は家族に連絡をして了承をえている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人さんの付いた利用者がいたため勉強会を行っており今後も成年後見人さんの関りもあると思うので、また勉強会で学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入居の段階からご家族には管理者、ケアマネから説明をしてもらっている。契約締結時には施設長からも説明をもらい納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月ごとにカンファレンスを開き決まったケアプランを家族に送り意見をもらっている。運営委推進会議を開催出来ていないので、面会や電話をする際に思いを聞き出すようにしている。	家族の面会は感染状況を見ながら行っている。現在は玄関先でガラスドア越しに職員が仲介して面会を行っている。そうした中、利用者のホームでの様子についてはケアマネージャーからの「ケアマネ便り」と担当職員よりの手書きの手紙に写真を添え毎月の請求書と合わせ家族に届け喜ばれている。毎年6月に行っている家族会「稲穂会」も中止が続いているがウィズコロナに向け家族、職員の意見を聞き再開したいとしている。また、誕生会、母の日、父の日には「洋服」「花」のプレゼントが家族から届けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給料明細を渡す際に各職員に直接渡し意見を聞いてもらっている。日々の中でのなかあれば管理者やケアマネに意見してもらっている。意見しやすい環境作りをするように心がけている。	月1回多くの職員が出席出来る日を選び日中2時間ぐらい職員ミーティングを行っている。入居間もない方への接し方、各種勉強会、カンファレンス、意見交換等を行い業務の向上に繋げている。法人としてのキャリアパス制度があり職員は自己評価表を用い自己評価を行い管理者による評価の後施設長に報告され最終の評価に繋げている。合わせて年度初めと賞与支給時の年3回施設長による個人面談が行われている。また、日頃より管理者と話し合う機会を設け個々のスキルアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを活用し職員の努力や実績を評価、反映できるようにしている。また行事や研修を通してやりがいなどに繋げるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行事や研修を通して職員の意見を反映させたり研修の報告をし働きながら成長できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修などでは交流する機会がありサービス向上に繋がっている。以前行っていた近隣施設との交換交流はできていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居の段階から本人、家族と面談を行い本人の困っていることを聞き取り入居してからのケアプランやサービスに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者との面談やなにかあった際の連絡時に一つ一つ報告をして、信頼関係を築くことが出来ている。家族の意見も聞きながらその後の関係構築にも役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居の段階から本人の意向などを見極めて職員間で話し合いを行って、他のサービスも視野に入れながら考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士で日々の関係を築いている。職員の間にもレクリエーションだったり日々の仕事を手伝ってもらい支えながら関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設のケアだけで完結しない物事を家族に相談したりお願いをしている。出来ないことは家族に頼っている。共に支え合う事ができている。		

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所ではケアハウスとの交流が継続している。施設での行事などは、合同行事は中止になっているので、馴染みの人や場所が減っているが、出来る事は残している。	新型コロナ禍の状況下、友人、知人の面会は自粛している。そうした中、隣接のケアハウスで毎週日曜日に行われる「編み物教室」に通っている方が数名いる。また、携帯電話を持つ方がおり、家族と連絡を取り合っている。「洋服」「日用品」等、欲しい物については利用者の希望を聞き担当職員が買い物に出掛け渡している。理美容についてはボランティアの美容師がケアハウスに2～3ヶ月に1回来訪するのに合わせカットしていただいております、馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をしたり良い関係を築いている場面では見守り。上手くいかない場面では、職員が介入していい関係を築いている。その空間に一人残されるような事がないようにつとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡以外に転居する場合に移転先には最大限の情報提供を行い転居による影響を最小限にしていきたい。後日家族から問い合わせがあれば最大限協力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が各利用者に着いており本人の意見だったり意向を理解している。自分の意思を伝える事が難しい入居者はその人にとってのケアを一番に考え取り組んでいる。	アットホームな雰囲気大切に自由に過ごしていただくようにしている。意思表示の難しい利用者が数名おり、「はい」「いいえ」で答えられような声掛けをしているが、難しい場合は表情や行動より意向を汲み取り希望に沿えるようにしている。入浴時や食後の寛いでいる時に話を聞き、気づいた事柄については介護ノートに纏め、出勤時に確認し意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	体験入居から家族、ケアマネを通して聞き取り入居されてからもご本人との会話の中から職員1人1人が聞き取りそれを職員の中でも反映出来るように記録し話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員1人1人が就業する前に記録や変更事項を読み把握できるように努めている。その日、その晩の出来事をしっかり送りの中で伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当がケアマネに本人からくみ取った意見を伝え計画の中にもりこみ、それを全体のカンファレンスで話し合いチームで取り組んでいる。	職員は1名の利用者を担当し居室管理、生活用品の補充、家族への手紙の作成、評価表の作成を担当している。毎月行われるカンファレンスの席上3名ずつモニタリングを行い、家族の希望も加味しながらケアマネージャーがプラン作成を行っている。入居時は1ヶ月間の暫定プランで様子を見て、3ヶ月のプランに切り替えている。合わせて状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い一人ひとりに合った支援に繋げている。	

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はなるべく分かり易く記入している。その記録をカンファレンス以外でもケアマネや居室担当者と話し合いケアに反映出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(介護は何でも屋)と張り紙をして、専門以外のことも話を聞いたり、映像を見て違う分野でも利用者のニーズに答えることが出来るように努めている。主治医や家族と相談して1月からマッサージも活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々の協力を得て野菜を収穫したり散髪屋さんに来てもらったり、同系列施設で手芸教室にも参加している。家族も参加が出来るようになれば、参加型の行事も増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診があり何かあれば24時間対応で主治医から指示をもらい対応している。入居時には主治医からターミナル時の主治医の方針について話し合いがあり信頼関係が築けている。	入居時に医療体制についての説明を行い、緊急時の対応に備えホーム協力医に統一させていたでいる。そうした中、協力医の月2回の往診で対応し、24時間の対応が可能となっている。合わせて必要に応じ協力医の看護師の来訪があり利用者の健康管理に当たり、万全な医療体制を整えている。歯科については月1回歯科医と歯科衛生士の来訪があり、口腔ケアを含め口の健康にも配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	忙しい医師との仲介をしてくれ、簡単な質問に答えてくれ、急ぐ時には飛んできてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院する際はサマリを良く確認している。それ以外でも看護職やソーシャルワーカー、薬剤師からも情報を聞き取り適切な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所した際に主治医から看取りに関する話をしてもらい、家族の意向を反映している。終末期には家族との連絡を密に取りあって支援している。	重度化、終末期に対する指針があり、入居1ヶ月以内の往診時に合わせ協力医との面談を行い、家族の意向も聞いた上で取り組みについての説明を行い同意を頂いている。食事や入浴が難しい状況になり終末期を迎えた時には家族、医師、ホームの間で話し合いの場を設け、家族の意向も確認の上医師の指示の下、改めて同意書にサインを頂き医療行為を必要としない範囲において看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に3名の方の看取りを行いコロナ禍ではあるが家族には居室にて共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。看取り中には好きだった音楽を流し職員が手厚い介護を行っている。看取り後には振り返りの時を設け良かったこと、悪かったことを話し合い経験を次回に繋げるようにしている。	

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティングで対応について勉強している。急変や事故があれば管理者、ケアマネに連絡して家族にも報告している。その後も記録を職員間で周知して対応策も話しあっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	年二回避難訓練をおこなっている。そのうち1回は消防隊員に来ていただき指導してもらっている。備蓄品やマニュアルなども用意している。	年2回、消防署へ届け出の上防災訓練を行っている。4月には火災を想定した夜間想定避難訓練を行い、夜勤職員より施設長に一報を入れ施設長ほかの到着に合わせ利用者をデッキより外へ移動し避難訓練を行い、合わせて初期消火、通報訓練も実施している。10月には日中想定で初期消火、外へ移動しての避難訓練を行い防災意識を高めている。備蓄は「米」「非常用食料」「水」等が3日分、準備されている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無断で居室に入ったりせず、声をかけ出入りしている。他入居者からも目に入らぬよう、のれんなどをかけている。トイレでも使用時には扉を閉めて、声をしっかりかけている。入浴の際も同性介護をおこなっている。	一つの家族としてアットホームな雰囲気を大切に、言葉遣いについては敬語を基本としているが親しみを込め方も交えながら優しく接するようになっている。また、利用者の前では他の利用者の話はないよう徹底している。入室の際には許可を得て入るように「ソック」と「失礼します」の声掛けをしている。合わせて居室のドアは基本的に開けっ放しの状態なので「のれん」をかけプライバシーに配慮している。呼び掛けは希望に合わせて苗字や名前に「さん」を付け呼びししている。年1回、権利擁護の研修会を行い、意識を高め取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にしっかり意見を確認してから支援している。自己決定が難しい利用者も本人の意向を聞き出しながら支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度スケジュールは職員の方で決めている。その中で自分で選択できる機会は選んでもらっている。食事なども本人のペースに合わせている。職員の都合を押し付けていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人その人の好きな服を着てもらっている。寒暖の差で衣類の選択が必要な際は声を掛けている。散髪などは、希望に沿ってボランティアの方に切ってもらったり、職員が切っている。	

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好きなものなどを聞いて提供などしている。準備なども出来る事を手伝ってもらっている。台拭き、お盆拭きもお願いで手伝ってもらっている。	三分の二の利用者が自力で食事ができ、三分の一の方は介助が必要な状況となっている。献立は隣接するケアハウスの栄養士が立てた一週間分の一部アレンジし調理している。利用者のお手伝いについては力量に合わせ野菜の下処理、盛り付け、後片付け等に参加していただいている。新型コロナ禍で外食が難しい状況が続いているが行事の際には希望を聞き、正月には「刺身」、誕生日には全員でケーキ作りを楽しみ、敬老会には「鰻」をテイクアウトしている。また、テレビを見ていて「ハンバーグ」が食べたいとの希望があり、テイクアウトする予定があるという。更に、月1回振る舞われる管理者のイタリア料理も楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアハウスの管理栄養士に作ってもらった献立を元に栄養とバランスに配慮している。水分摂取には、食事やお茶の時間以外にも水分を摂るためにジュースや寒天でゼリーを作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。声掛けをして磨いてもらい、出来ない方は介助して行っている。必要な方は、月1回歯科往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前だったり後に声を掛けてトイレに寄ってもらっている。パットなども自分で交換できる様に個々が分かりやすい場所に置いて変えてもらっている。	自立している方は若干名で、一部介助の方が数名、全介助の方が三分の一という状況である。排泄表も参考に起床時、おやつ時、食事前、就寝前の定時誘導に合わせ一人ひとりの様子を見てトイレに誘導している。排便については3~4日間内場合には排便コントロールを行い、お茶、ジュース、ヤクルト、スポーツドリンク等、1日1,200cc以上の水分摂取に取り組み排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎回食事の際に味噌汁とお茶を提供している。お茶を残す方には、ジュースや寒天のゼリーなどを用意して水分を摂取できるようにしている。排便を促す薬も適時に使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間はこちらの都合で入浴になっている。同性介護で入浴出来るように交代で対応している。個々の体調も確認しながら入浴の支援に繋げている。	自立している方は若干名で、他の多くの方は介助が必要な状況で、三分の二の利用者はミスト浴を使用している。入浴拒否の方ではなく、週2回の入浴を行っている。入浴剤を使用し、「ゆず湯」等で季節感も楽しんでいる。入浴後にはジュースやスポーツドリンク等、冷たい飲み物を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の質を高めるために、昼間は活発に活動出来るように支援している。利用者によっては、離床している時間を短くしてその人にあった時間で休息してもらっている。		

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時にケアマネが薬の変更を記録して周知している。内服薬の処方箋もいつでも確認できるようにファイリングされている。服薬する際も複数人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎回朝食後にごみ捨てに行ってもらっている。食事ごとに、お盆を拭いてもらったり、机を拭いてもらっている。空いた時間でも利用者同士でかるた取りを、取り手、読み手に分かれてやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園や向かいのケアハウス、散歩などで外出している。最近入られた方では、日中外出してご自分のお家で過ごしてもらっている。	外出時、自立歩行の方は若干名で、他の多くの方が車いすを使用している。天気の良い日にはホームの近隣を地域の皆様に挨拶をしながら散歩している。また、広いベランダで外気浴を楽しんだり、夏場にはホームの畑に出て野菜の収穫を楽しんでいる。新型コロナウイルスではあるが季節に合わせて数ずつに分かれ福祉車両を利用して花見から秋の紅葉見物までドライブに出掛け季節感を味わえるようにしている。そうした中、昨年12月に自宅に戻り家の様子を確認し食事をしてからホームに戻られた方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在は現金を、事務所で預かっている。希望があれば各居室担当が購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もおり使用する際は居室で使用してもらっている。手紙などは、出来るところはやってもらい、手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや、馴染みの物などを飾っている。お花などもボランティアの方が持ってきてくれたり、職員が用意してくれている。	広い敷地内には「ふれあいホール」があり、様々な行事に利用出来るよう配慮されている。ホームの裏には広い畑があり、多くの野菜が栽培され食材として使用されている。共用部分には食事テーブル、テレビ、オーディオ機器等が置かれ、歌や体操を楽しむスペースが設けられている。また、季節に合わせた飾り付けを行い、現在は「ひな人形」が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓だったり、テレビの前だったりと一人一人で落ち着ける場所がある。見守りだけで大丈夫な方は居室でもゆっくりされている。		

グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っているものは、持ち込んでもらっている。普段使っている物を目にとめやすい場所に置いている。転倒してもケガのないような物の配置にしている。	整理整頓が行き届いた居室には大きなクローゼットと床暖房、エアコンが設置され、快適な生活空間となっている。持ち込みは自由で家族と相談の上、タンス、衣装ケース、イス、テーブル、神棚等が持ち込まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る人にはやってもらい見守りをする。それをしやすい物の置き場だったり環境を用意している。施設内の張り紙なども目に留まりやすい場所に設置している。		